

で、今年こそは、皆で遊びに行けたらいいなあと思っています。思い出は、覚えていいる事も、忘れてしまった事も、人によって違うと思います。人生の節目のこの年に、懐かしい思い出話で、お互いの還暦と先生の喜寿？のお祝いが出来る事を楽しみにしております。

植野先生が二高にまだおられる頃、学校を訪問させて頂いた事があり、廊下で男子生徒とすれ違っで、共学になった事は、もちろん知っていたのですが、なんと全く違う学校に来てしまった違和感と新鮮さと、そして、時代の変化を痛感しました。母校は、時代と共に変化し続けていくでしょうし、発展していつてほしいと心より念願しておりますが、時代が変わり変化していても、私たちの過ごした高校時代の思い出は、永遠に変わらず、心に残っていくでしょう。しかし、もう一つの見方をすれば、年齢を重ねて思い出を振り返って、さらに深く変化させる受け止め方が出来るとしたら、思い出は永遠に生き続けるものかもしれませんね！

昭和の思い出を平成を飛び越えて、令和元年に、恩師と旧友とで、また重ねられるといいと思っています。

## “変わらぬ友情”

同窓会会計 櫻井 千恵子

「今年は是非、逢いましょう……」  
毎年の年賀状での決まり文句ですが、今まで実現したためしなし。しかし今回、念願叶ってやっと実行することができました！古河のレストランにて親友たちと久しぶりの再会、四人という少人数でしたがミニクラス会を行いました。

そこでは思い出話から始まりましたが、その中の一人が卒業アルバムを持参、さらに盛り上がったことは言うまでもありません。皆、十七、八歳のころにタイムスリッブして当時、放課後に一緒に勉強したこと、進路であれこれ悩んだこと、未来に向かって大きな希望をもっていたことなど懐かしい思い出がいっぱいでした。その後の会話は、家族の話、仕事の話と内容は多岐に及びましたが、最後は健康の話になり、この歳になって親の気持ちがかかったと実感した次第です。

人は「出会い」で人生が変わると言いますが、私がこうしてここまで生きてこれたのも古河二高で良き先生や友に出遭ったからだと思っています。これからは素敵な六

十歳を迎えられるように日々健康に留意してまた元気に逢えることを約束しました。次はみんなそれぞれ声を掛け合って、もっと大勢のクラス会にしたいと考えています。



## 奈良の鹿

昭和六十年卒業（三十七回生）

植田 由美

縁あって奈良に暮らして二十年になります。健康のために始めた散歩は、「ならまち」の魅力によって、すっかり習慣になりました。先日、夕食後の散歩中、鹿と車の事故を目撃しました。車は去ってしまい、立ったまま動こうとしない雄鹿、すぐに保護団体へ連絡を取り、到着した職員の方に、状況説明し、後をお任せして帰宅しました。奈良の鹿は野生ですが、

鹿愛護会の活動で、保護、育成されています。雌鹿の早い快復を願うばかりです。

「奈良の鹿は茨城から来た」と



いう伝説をご存知でしょうか。「春日大社の祭神、武甕槌命が、鹿島神宮から神鹿に乗ってやって来た」という神話です。「君達のルーツも茨城なのね」と思うと、さらに親しみが増します。今では、千頭を超える孫たちが、愛らしい姿で、観光客を迎えてくれます。早起きして、飛火野へ行くと、朝食の芝を「プチプチ」と咬む鹿たちに会えます。静かな陰影の中で、「キューン」という子鹿の鳴く声が、きこえてきます。夕方は東大寺、二月堂へ歩きます。平城宮跡の向こう生駒山へ沈む夕日は最後の一瞬まで美しく、黄昏時の境内を歩く鹿は、気安く近づけない野生の、風格を現します。

奈良公園には、まだまだ数多く史跡が存在し、そこには必ず鹿の姿があり、いろいろな表情を見せてくれます。楽しかった修学旅行を思い出しながら、大人になった今の思い出に入りを見つめる旅に出かけてみては如何でしょうか。